

ぐんま愛

# 誰もが住みやすいまち 高崎

## 外国人支援

◆**行政書士による外国人相談** 外国人住民からの多様なニーズに対応するため、行政書士高崎事業協同組合の協力ののもと、在留資格・国際結婚・離婚、永住、帰化、就労、起業などの相談に応じている。

◆**オンライン医療通訳** 市内4カ所の病院(高崎総合医療センター、日高病院、

産科婦人科館出張佐藤病院、黒沢病院)でオンライン医療通訳が使える。英語、中国語、韓国語、ベトナム語などで受診可能。

◆**ラジオ高崎「外国語市政情報」** 市政情報を英語・中国語・ポルトガル語・ベトナム語・ネパール語・スペイン語・タガログ語の7言語で放送。

## 外国人相談支援センター

高崎市に住む外国人は1月末時点で8221人で、10年前と比べて1.9倍に増加している。国籍も中国、ベトナム、フィリピンなど多様だ。急増する外国人住民をサポートする窓口となるのが、市が昨年4月に開設した外国人相談支援センター。外国出身者を含むスタッフを配置し、従来の4言語(英語、中国語、ベトナム語、ポルトガル語)に3言語(ネパール語、タガログ語、スペイン語)を追加した。映像通訳システムを含めると17言語に対応している。

相談できる言語を拡充したことで、市内在住外国人の90%以上の使用言語に対応できるようになった。本年度は1月末までに延べ2095人が利用した。平均で1日約10件の相談を受けている。相談者からは「母国語で相談できて安心した。きめ細かなサポートで、独りではないと感じた」と喜ばれている。「私自身も初めて日本に来

た時は周りの親切に支えられた。その経験を生かして、不安に寄り添いたい」。そう笑顔で話すのが、センター相談員で米国出身の高橋アレクサンドリアさん(31)だ。英語と日本語が堪能で、行政に関する手続きをはじめ、ごみ出しルールや家電製品の使い方など幅広く対応している。

バン格拉デシュ出身で、同市に住んで3年の男性の相談



相談員の高橋さん

## 地域に溶け込む架け橋

に応じたエピソードが時に印象に残っているという。男性は当初、日本語の日常会話は可能でも、漢字の読み書きが難しかった。継続的にセンターに通い、サポートを受けるうちに、子どもの誕生に伴う手続きなどを自力で進められるようになった。男性は「センターは外国人が地域に溶け込むための架け橋で、欠かせない存在」と感謝したという。

困り事や悩みを解決するだけでなく、相談者自身の成長も支えている。相談内容として最も多いのが「日本語を学びたい」で、本年度は1月末時点で242件が寄せられた。生活者としての外国人に向けた日本語学習サイトの案内や外国語が併記されたチラシ、パンフレットなども活用しながら、これからも外国人住民が住みやすい街づくりを続けていく。



Consultation Center for Foreign Residents

## 高齢者支援

◆**高齢者福祉なんでも相談センター** 高齢者や家族が介護サービスの利用や生活設計、健康上の不安などについて、保健師や社会福祉士の資格を持つスタッフに幅広く相談できる。

◆**介護SOSサービス** 専用ダイヤルで24時間365日、緊急の場合でも訪問や宿泊サービスを提供する。

◆**おとしよりぐるりタクシー** 高齢者など交通弱者の移動支援として運行する無料の乗り合いタクシー。

◆**高齢者世帯買い物SOSサービス** 体調不良などで買い物に困難になった高齢者に対し、電話で必要な食料品や日用品の宅配を受け付け、買い物の負担軽減を図る。

◆**高齢者ごみ出しSOS** 70歳以上の高齢者、障害者のみで構成される世帯などのうち、ごみ出しが困難な世帯を対象に、無料で戸別にごみを収集し、声掛けによる安否確認を実施。

◆**はいかい高齢者支援システム** 徘徊など日常的な行動に不安がある高齢者や障害者に小型GPS機器を無料貸与。

## 高齢者カシごとSOS

高齢化が急速に進む中、高齢者に安心して生活してもらうと、市は多様な支援事業を展開している。2023年度から始まった「高齢者カシごとSOS」もその一つ。重い家具の移動や粗大ごみの処理といった作業員が代行するサービスで、電話のみで簡単に依頼できる。24年度は2120件の利用があり、多くの高齢者支援につながっている。

同事業は、70歳以上の高齢者か障害者がある人みの世帯が対象。作業員2人が1時間以内でできる継続性のない作業を代行する。粗大ごみや家電製品は処分費用がかかるほか、一度に依頼できるごみの数や重さに制限がある。家具を移動する部屋の模様替えなどは無料で受け付ける。

市長寿社会課によると、タンスやベッドといった家具の処分、移動の依頼が多いという。処分の場合、通常は自宅

## 電話一本で依頼「助かる」



カシごとSOSを利用した高橋さん

の人が多いため、市のチラシを渡して紹介したという。「みんな助かる」と言っている。われわれ(高齢者)は、どこへ聞いていいかも分からない。電話一本でお願いできるのもありがたい」と感謝する。

市は、高齢者福祉に関する計画「高齢者あんしんプラン」のキャッチフレーズに「日本一高齢者に寄り添うまちを目指して」掲げている。平児玉さんも「他市の人に聞くと、高崎市は高齢者支援が充実していると感じる」と実感も込めている。同事業以外にも、高齢者や家族がさまざまな悩みを相談できる「高齢者福祉なんでも相談センター」の開設など、多様な体制を整える。

今年度からは、地域の「長寿会」に対し、県内の日帰り旅行費用や健康づくり活動などを支援する新たな補助事業も始まる。今後も「日本一」を目指した高齢者への支援が広がろう。



重い家具の移動などを支援する作業員

## 子育て支援

◆**学校給食の無償化** 2026年4月から市立の小・中・特別支援学校の給食費を完全無償化していく。

◆**居場所づくり事業** 夏休みなど長期休暇期間のみ放課後児童クラブへ入所を希望する保護者のニーズに応え、市保健センターと倉洲を除く各地域に計6カ所設置。

◆**保育所の入所を通年受け付け** 保育所の入所の不安解消のため、通年で申し込みを受け付ける。入所の可否は原則2週間で回答。

家事や育児のサポートを行う(利用料は1時間250円)。電話や面談で育児に関する相談にも対応する。

◆**子育てなんでもセンター** 1カ所できざまな相談ができ、必要な支援が受けられる。子育てや就労支援、託児など、市や関係機関、NPO団体などが一体となって運営している。

◆**子育てSOSサービス** 電話1本で妊娠期や就学前児童のいる家庭にヘルパーが出向き、

## 放課後児童クラブ「選択的委託制度」

共働き世帯の増加に伴い、放課後児童クラブの利用者も増えている。運営に携わる保護者の負担軽減などの課題解決に向けて、市は昨年4月に放課後児童クラブ支援課を新設。新年度から、クラブ運営に関する事務や会計、支援員の採用などの業務の全て、または一部を外部委託する「選択的委託制度」が導入される。

小学3年の長女を預ける細川真紀さん(39)は、長女が2年生だった昨年度に保護者会運営委員の会長を務めた。細川さんが利用するクラブでは、代々2年生の保護者全員が役員となり、そのうち会長や会計などの役職者6人が中心となって運営してきた。

運営業務は予算や決算の書類作成や児童の入所審査、保育料の徴収、支援員の採用や給与計算、労務管理など多岐にわたる。「仕事とは別に会社を運営していくようだった」とため息をつく。入所の申し込みが多く、断

## 手厚いサポートに感謝



小学3年の長女を預ける細川さん

る際は同じ保護者として心苦しい思いもした。保育料滞納への対応や、支援員の採用、時給の交渉など、金銭に関わる業務は特に負担を感じた保護者が多い。

短時間勤務を活用する細川さんは、平日午後5時に保育園へ預ける長男を、その後はクラブへ長女を迎えに行く。業務や会議がある日は、子どもたちに急いで夕食を取らせ、その後帰宅した夫と交代して家を出る日が多かった。複雑な書類作成や会議の準備で帰宅が夜10時を過ぎ、子どもたちは待ちきれずに寝てしまったこともあった。業

務で出かけるたびに「ママ、また会議？」と言われ、「宿題を見たり遊んだりする時間が取れず、寂しい思いをさせてしまった」と申し訳ない気持ちになっていた。初めて手がけたのが地域包括支援センターの再編でした。名称も変えて、職員が高齢者を訪問する体制をつくりました。24時間365日、電話してもらえば30分以内に職員が駆け付ける「介護SOSサービス」はこうした考えが基になっています。かつて文部科学省で働いていた頃、子どもが直属の上司となったことがありました。仕事のできる人でもしたが、仕事が長引いて子どもの迎えを家族に頼んでいる姿を見たこともあります。自分の身なりに気を配る余裕もないほど仕事と子育ての両立に苦労していました。



市内の放課後児童クラブの様子

高崎市長

高岡賢治

地方公共団体の最大の責務は福祉で、高齢者が安心して暮らせる社会をつくること、子育て世代を支える環境整備が最も重要だと思っています。

市長に就任した頃、妻や自身の親の介護を理由に、「仕事を辞めたい」と言ってきた職員がいました。期待していた職員でしたので、引き止め、仕事の割り振りも工夫しましたが、結局、思いどもらせることはできませんでした。そのとき介護疲れで体を壊したり、離職せざるを得なくなったりする人をなくしたいと強く思いました。



ただ、どんなことに困っているのか、どう手を差し伸べるべきなのか分からないと表現できません。そのため相談を呼びかけたり、来てくれるのを待っていたりするだけではだめで、こちらから出向いて状況を把握すべきだと考え、「待つ福祉」から「出向く福祉」へと転換し、今でもそれが福祉施策の基本となっています。

最初に手がけたのが地域包括支援センターの再編でした。名称も変えて、職員が高齢者を訪問する体制をつくりました。24時間365日、電話してもらえば30分以内に職員が駆け付ける「介護SOSサービス」はこうした考えが基になっています。かつて文部科学省で働いていた頃、子どもが直属の上司となったことがありました。仕事のできる人でもしたが、仕事が長引いて子どもの迎えを家族に頼んでいる姿を見たこともあります。自分の身なりに気を配る余裕もないほど仕事と子育ての両立に苦労していました。

その人はもちろん大変なのですが、若い女性職員がそんな上司の姿をいつも目にしていたら、仕事や子育てに希望を失ってしまうのではないかと、そうした思いが忘れられず、子どもを育てながら働く女性の支援へとつながっているのだと思います。

子育て世代への支援も高齢者支援と基本的な考え方は同じです。役所で待っているのではなく、こちらから出向いて何が求められているのかを把握し、必要に応じて手を差し伸べてあげたい。

## 「待つ」から「出向く福祉」へ

最近、子どもや子育て世代を見て「子どもの虐待死をなくしたい」「高崎の子どもは高崎で守りたい」との思いを強くしています。そのため独自に児童相談所を設置したり、「ヤングケアラーSOSサービス」を全国に先駆けて実施したりしています。

今、高崎に移住する人が増えています。コロナ下でも祭りや花火を継続して経済活動を維持したこと、文化的な取り組みや民間連携によるイメージアップに加え、福祉や子育て環境の充実が大きいと思っています。今後も困っている人が何を求めているのかを適切に見極め、迅速に対応していきます。

ぐんま愛

SINCE 1914

# この街と生きていく

高崎信用金庫は、創立以来変わらぬ姿勢で、この街とともに歩んでまいりました。これまでも、これから、地域のみなさまの豊かな暮らしのお手伝いに努めてまいります。

人、街、未来にニューバンク 高崎信用金庫

地域への力 応援キャンペーン ぐんま愛 協賛社

（順不同）

EARTH CARE	THI	アイソ-信用金庫	Aizawa	緑城自然園	あかぎ信用組合	あすかホール	有賀園ビル
石川建設	インベーターズ	いももん	糸井商事	GATEAU FESTA HARADA	カネコ種活株式会社	北群馬信用金庫	共愛学園
桐兵学園	桐生信用金庫	アンイチパレ	ぐんたね	群馬銀行	群馬県信用組合	群馬タイハツ	群馬トヨタ
群馬ナブコ	ぐんまみらい信用組合	ケアサブライシステムズ株式会社	コンサル&ファーム	坂本工業	佐田建設	JAグループ群馬	JESCO AKUZAWA
JESCO SUGAYA	しのめ信用金庫	住宅金融支援機構	株式会社スナガ	第一生命	高崎商科大学	高崎松風園	高崎信用金庫
東京海上日動	TOYOTA WOODYOU HOME	トヨタカラー群馬	日典	株式会社日本キャンパック	JFC 日本政策金融公庫	ネットコム群馬	
富士スバル	冬木工業	アリエッセ	Primavera	HOKUSHIN	北海道電力株式会社	三電信託	株式会社みとわ
株式会社三山製作所	学校法人 未来学園	メロート	ヤマト	国ようざん	555藤岡	連合群馬	地域の力 応援キャンペーン ぐんま愛